

第5回情報連携基盤技術ワーキング資料に関するコメント

WG委員 坂東 和彦

1. ユースケースの具体化について

ユースケースの具体化を行うことにより、全体のスケジュールへの影響を検討すべきと考えます。具体的には、以下のような作業が必要と考えます。

対象となる業務(対象法規)の確定

各情報保有機関による、対象業務のユースケースに対するフィージビリティ検討(具体的には以下の概要検討)

- ・影響範囲
- ・スケジュール

上記、各保有機関のスケジュールを織り込んだ、全体スケジュールの見直し

特に、の情報保有機関による検討では、保有データのクレンジング等、固有の課題もあるものと予想され、対案の検討含め、対応が必要と考えます。

2. 番号連携方式案4, 5について

この案では、社会保障・税に関連する情報保有機関を一つの分野として取り扱い、また、「番号」を各機関が保持、利用することが想定されています。

共通の「番号」を持つことは、情報連携の方式に関わらず、単一の機関による一元的管理が行われるリスクがあり、また、「番号」を含む個人情報保護に対する対策も必要となります。

一方、同一分野において、共通のリンクコードあるいはIDコードを用いることによる利点として、運用におけるメリット(トラブル、イレギュラーケースへの対応における、他案と比較しての即応性など)があることも考えられます。

従いまして、各案の比較、検討には、対象となる分野ごとの「番号」や連携を行う情報等のユースケースを踏まえた一元的管理の脅威の明確化、運用も含めたメリットデメリットの整理の後、最適、最良な案を決めていくことが必要と考えます。

3. ICカードについて

現在、WGにて検討中ではありますが、全国民への配布を考えますと、十分な準備と、期間が必要と思われます。ICカードそのものだけでなく、配布を行う仕組み、利用までの段階的な配布、運用など、検討を行う必要があるかと思えます。

以上